

催し物のご案内

特別展「しらべて分かった! 里山にくらす動物たち」

2026年7月18日(土)～11月8日(日)

休館日 / 9月7日(月)、8日(火)、14日(月)、24日(木)、28日(月)、
10月5日(月)、13日(火)、14日(水)、19日(月)、26日(月)、
11月2日(月)、4日(水)

哺乳類、鳥類などの里山の生きものの魅力やくらしぶりの変化などを分かりやすく解説します。多様な生きものについて大人も子どもも楽しく学べる展示を通じ、この先の未来、人と野生生物がどのような関係を築いていくべきか、改めて考えるきっかけを提供します。



《 事前申し込みの講座 》

詳細は、博物館ウェブサイトや催物案内をご覧ください。

- 博物館学入門～展示の企画と模型の製作～[博物館]
日時 / 7月11日(土)・25日(土) 10:00～15:30
対象 / 大学生～成人 12人
申込締切: 6月30日(火)
- きのごさがし[博物館および館近くの山林内]
日時 / 7月18日(土) 10:00～15:00
対象 / 小学生～中学生 25人
※小学1年～3年生は保護者参加必須
申込締切: 7月7日(火)
- 初めてのシダ～シダ植物の観察ポイント～[博物館]
日時 / 8月2日(日) 13:30～15:30
対象 / 中学生～成人 12人
申込締切: 7月21日(火)
- あなたのパソコンで地形を見る(教員優先)[博物館]
日時 / 8月4日(火) 10:00～15:00
対象 / 教員を優先とした成人 12人
申込締切: 7月21日(火)
- いろいろな羽根を観察してみよう[博物館]
日時 / 8月9日(日) 10:00～11:30
対象 / 小学1年～3年生とその保護者 10組40人
※保護者参加必須
申込締切: 7月28日(火)
- 羽根の持ち主さがしに挑戦[博物館]
日時 / 8月9日(日) 13:30～15:30
対象 / 小学4年～6年生・中学生とその保護者 10組40人 ※小学生は保護者参加必須
申込締切: 7月28日(火)
- 先生のための地層学入門[博物館]
日時 / 8月14日(金) 10:00～15:00
対象 / 教員 12人
申込締切: 8月4日(火)
- 日本にゾウがいたころを知らう[博物館]
日時 / 8月16日(日) 10:00～16:00
対象 / 高校生～成人 20人
申込締切: 8月4日(火)
- 日本の変った姿の動物、デスマスチルス類ってどんな動物?[博物館]
日時 / 9月13日(日)・10月25日(日) 10:00～15:00
対象 / 高校生～成人 15人
申込締切: 9月1日(火)
- これ何の骨? ハ虫類の骨を調べてみよう[博物館]
日時 / 9月19日(土) 10:00～12:00
対象 / 小学4年生～成人 10人
申込締切: 9月8日(火)
- きのご観察と同定[博物館および館近くの山林内]
日時 / 9月13日(月・祝) 10:00～15:30
対象 / 小学4年生～成人 25人
申込締切: 9月8日(火)
- 絵本『せいめいのれきし』片手に展示を楽しむワークショップ[博物館]
日時 / 9月26日(土) 10:30～16:00
対象 / 成人 12人
申込締切: 9月15日(火)
- 古生物学入門～中軸骨格(頭骨を除く)編～[博物館]
日時 / 10月3日(土) 10:00～15:00
対象 / 大学生～成人 12人
申込締切: 9月22日(火・休)
- 用水路や川の生き物を調べよう
[県央部または県西部(未定)]
日時 / 10月4日(日) 10:00～14:00
対象 / 小学3年生～成人 20人
※小学生は保護者参加必須
申込締切: 9月22日(火・休)

催し物の詳細や最新の情報は、当館ウェブサイト、および公式X(旧Twitter)でご確認ください。

生命の星



[公式ウェブサイト] <https://nh.kanagawa-museum.jp/>
[公式 X] @seimeinohoshiPR [混雑情報 X] @seimeinohoshiCI
[問合せ先] 企画情報部 企画普及課 TEL: 0465-21-1515

ライブラリー通信 墓石は小田原で?!

つちや さだお
土屋 定夫 (司書)

戦後文学の評論で活躍した本多秋五^{ほんだしゅうご}という文芸評論家をご存じでしょうか?

1908年(明治41年)、愛知県猿投村、現在の豊田市に生まれた本多氏は10代の頃より文学作品を書き、東京帝国大学国文科を卒業し、様々な評論活動を行います。詳細はここでは触れませんが、興味のある方はぜひ調べてみてください。

本多氏は1947年(昭和22年)に神奈川県逗子市に居を構えます。実は35年ほど前に知人から本多家の庭に木を植えるので手伝えと言われ訪ねたことがあります。その時の氏の温厚なまなざしを今でも覚えています。あの時の木は大きくなったことでしょう。

さて、1981年(昭和56年)に氏の姉が亡くなり、一周忌までに墓を建てたいと考えます。姉の望みは沢庵石^{たくあんいし}ほどの自然石一つというものでした。逗子と鎌倉の石屋を見て回りますが見つかりません。墓地は郷里^{きょうり}に買ってあったので、そちらでも探しますがどうもしつくり来ない。

小田原に住んでいた作家の尾崎一雄に石屋のことを聞くと「小田原の市を箱根の方へ出外れて、新幹線のガードをくぐった先の、板橋というところにある」と教えられます。この石屋の創業は明応年間(1492年)という老舗でした。そこで彼は枕より少し大きい石を手に入れます。

しかし長男から「こんな石なら、丹沢へ行けば、いくらでもゴロゴロしている。」と言われ、丹沢へ出かけることになりました。丹沢湖に流れ込む河内川^{こうちがわ}の河原でこれかと思う石を見つめますが、どうにも運べないので、小さめなものを5～6個拾って帰ります。それらを小田原の石と較べてみると、丹沢のものは小さくて見劣りがしたそうです。結局、小田原で手に入れたものを墓石にすることになったのでした。この経緯は「墓と墓石」という随筆に書かれています。『一閃の光』所収)

石は国外からもやってきますので、どこに運ばれても不思議ではありませんが、小田原で手に入れた石が愛知県で墓石になると何かしらの縁を感じてしまいます。

本多夫妻も郷里で眠っていますが、どうやら墓石はそちらで見つけたようですね。



筑摩書房 1993年

自然科学のとびら
第32巻2号(通巻123号)
2026年6月15日発行
発行者 神奈川県立生命の星・地球博物館
館長 佐藤 武宏
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499
TEL: 0465-21-1515 FAX: 0465-23-8846
編集 本杉 弥生(企画普及課)
印刷 株式会社あしがら印刷

© 2026 by the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History.